

ホーム名：グループホーム楠根の里 一階					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念（その人らしく、心身共に穏やかに、楽しみや、張合いのある暮らしをする）を掲げ、地域密着の意義を、全職員が理解するように常に話をしている。月二回ボランティアが来られ、音楽療法、歌体操を実施中。	理念を活かす支援は日常の支援の在り様を大切にし、職員間での連携で入居者一人ひとりとの関わりで共有できるものに心掛けて指導している。	調理担当職員に対しても入居者一人ひとりの状態に見合った食事提供に心掛けるよう取り組んでいる。事業所全体の理念実践として今後も継続されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩では、近所の人達と挨拶を交わしたり、校区の小学校の行事に参加させて頂いている。毎月、小学校の便りを届けて頂き参加の声掛けを頂いている。	自治会に加入、回覧板等での地域情報は得られている。行事への参加で交流ができるよう努めている。	入居者にとって小学校訪問で子供たちとの交流は楽しみのひとつになっていると思われる。盆踊り等を通じて地域住民との出会いもあり、地域への働きかけで協力関係を築いて頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から、社会福祉会主催の地域での独居の方の鍵預かりをさせて頂いている。地域の方が、安心され生活されるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方を交え、二か月に一度、開催している。ホームの現状報告、活動報告、今後の活動報告を行い、ホームでの出来事の話し合いを実施中。	運営推進会議への参加者が固定登録されていない中で地域の方の参加がほとんどない。	認知症介護の実践で入居者の変化、関わり方で症状が改善、感情面を引き出すことで豊かな表現は継続できることなど、ホームでの生活を地域の方にも知らせ、意見も聞く等、啓蒙の場として記録されたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の開催日時を伝え、議事録を送付している。また、寝屋川元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れ施設として、毎月実施表を送付している。	高齢者介護室が窓口になっているが事業所への訪問はない。市の提案でボランティアによる訪問サポーター事業は受け入れている。	近隣の地域での同業者が少なく交流がほとんどない中で保険者である市からの援助が求められると思われる。運営上の困難、問題点などを報告し相談されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	元々の設備上、外出時の扉はカード鍵が必要であるが、事務所の扉を開けることで、開放的になるように努めている。	身体拘束はないが言葉かけによる抑圧感を与えないよう指導している。入居者が行きたいところへ行けるよう見守る対応をしている。	外の空気を吸うことができない・出来る自分を感じることがない・自分でできることがない・一日の予定がない・好奇心を持つ機会がない生活は心身の拘束状態となる。ホームでの生活環境づくりが決定的と思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員はホームのモットーを常に意識し、日々の介護に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員へ権利擁護の理解を持つための説明を、ことあるごとに説明をしている。</p> <p>今年の7月から一階の入居者が成年後見人制度を利用されている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時は、家族様に対し十分な説明を行い理解、納得に努めている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、いつでも感じたことを書いて頂けるようにしている。</p>	<p>入居者に対して「何がしたい」か把握しレクリエーションに反映させている。家族の来訪時に声かけ報告しているが家族からの具体的な意見、要望は少ない。</p>	<p>家族によっては来訪が難しいことからお任せになってしまうこともあるが入居者の様子、変化を伝えることで入居者の気持ちが代弁できる事もある。家族の交流の場を提供することで認知症の理解を深める支援を願う。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフと信頼関係を持ち、スタッフの意見、提案を聞く機会を設けるよう努めている。</p>	<p>日常的にどんな小さな意見も言ってもらえるようスタッフへの働きかけで情報が管理者に集中できるようになってきている。入居者の人間関係修復のため居室移動等は改善になっている。</p>	<p>入居者も職員も生活の場では同じ仲間。助け合うこと、泣いたり、喜んだり、を共感できる支援に期待する。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員が、やりがい、向上心を持つことが出来る職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を各職員に行ってもらい、研修後は研修の記録を記入してもらい、すべての職員が参照をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年二回HPから交流する機会を頂いている。そこで、ネットワーク作りや、活動を聞き、勉強になると考えている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、各職員へ入居者の情報を伝え、入居者の理解に努めもらい職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、入居者との信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、家族様が困っていること、不安、要望を傾聴し、職員間で共有し、日々の様子観察を報告することで、家族様との信頼関係につなげている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援の見極めには本人、家族様の訴えを傾聴する姿勢を大切にしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>8名の方が、家庭的な雰囲気でご過ごせるようにするために、職員は介護すると考えず、その方を支えようと考え、努められている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と職員がともに、本人を支えていけるよう、日々の様子を家族様にしっかり報告を行い、ともに支えている関係を築いている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を家族様から聞きだし、継続できるよう支援している。</p>	<p>会いたい方はいるのか？喫茶店に行きたい、食事に行きたい等希望は受け入れたいと思っている。四季折々の行事として年賀状の色塗り等の支援で正月を迎えている。</p>	<p>「何がしたいのかを話したら実現してくれたから、又話してみよう」入居者の気持ち伝わるよろこびがある。「聞くだけ、見るだけはイヤ」自分もやってみたくて繋がっていると感じた。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の様子観察、担当者会議を通して、利用者間関係の理解に努めている。 入居者間関係が円滑にいくよう、居室変更を実施することもある。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了されても、引き続きの相談をされるよう声掛け行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを相談					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、家族の方を交え、話し合いの機会を持っている。	入居者の話を聞く、内容を記録で共有化し、実践に活かすよう心掛けている。	ホームの生活に慣れ、生活習慣（食事・排泄・入浴）の変化に何を感じているか、今までとどうなのか等本人の意志確認を行い意向をくみ取れる支援に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様に聞くことで、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を日々の申し送りの中で理解している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMがいつも総合的に把握し、家族様、関係者へ連絡調整を行い、介護計画、モニタリングに反映している。	毎月のモニタリングが記録されている。毎日のケア記録、申し送り用紙の活用で情報共有に繋いでいる。ケアマネを中心に複数でアセスメント確認、計画書が作成されている。長期、短期目標実践経過が記録されている。	毎月の勤務表の中で2ユニットを職員全体で入居者把握ができるしくみがつくられている。ユニット合同でのレクリエーションで入居者同士の交流する機会も提供している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための、柔軟な考えを持つよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、日々の生活を楽しんで頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を実施し、また精神面の不安定な方が、不穏なく過ごされるよう、主治医以外の医師に来ていただき処方の検討をされている。	入居時の説明でかかりつけ医を協力医療機関の香川クリニックに変更して頂き、月2回の往診、また数名の入居者は加えて寝屋川サナトリウムの往診での受診体制がある。往診費用は毎月徴収の健康管理費より賄われている。	緊急時の入院先も確保されており、入院時にはサービス提供記録を渡している。普段から取り組んでいる気づきや申し送りが記録されている事で、適切な医療に結びつけている。今後も同様、支援の継続を図りたい。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師が不在なため、CMが直接、医師に上申し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所されるまでに、当ホームでの出来る限りの範囲は家族様にお伝えしている。急変時は主治医に報告し、入院の運びをしている。 病院の相談員と連絡を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の支援はまだ、当ホームでは限界がある。医療行為が出来ないこともある。ただ、将来的には看取りのケアを望んでいる。	入居時に家族からは意向を伺っている。入院の段階で、重度化した場合や終末期に向けた支援についてのホームで出来る事・出来ない事を伝えている。現在ホームでの看取りを申し出ている家族はいないが、将来的にはホームでの看取りを管理者は考えている。	高齢の入居者もおられる現在、ホームでの看取りを視野に入れた今後の取り組みに期待する。理事長、職員とも積極的に話し合いたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備し、緊急時の対応を掲げ、すべての職員が実践出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は月二回実施している。ただ認知症の方なので、覚えて頂いていないことを懸念している。	直近の訓練（平成26年12月）では2階8号室からの出火を想定し、連絡・誘導・初期消火を確認した。消防からは“兎に角外に出よ”との指示を受けている。防火管理者は理事長となっている。	火災や地震など急な災害発生時に慌てずに避難・誘導が出来るよう、普段から訓練を身に付けておきたい。また、夜間を想定しての訓練も実施されたい。災害備蓄品を充実されると更に安心である。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が人格の尊重と、プライバシーの確保の大切さをしっかりと職員に認識してもらっている。 傾聴に心掛け、丁寧な言葉遣い・適切な声かけで人格を尊重した対応を行うよう職員に指導している。特に排泄支援時での対応に注意している。	職員への何気ない態度が入居者に与える影響は大きい。今後も意識しながらの対応に心掛けて頂きたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を大切にして、その中で、希望の表出を導き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、昼寝、レクリエーション等利用者一人ひとりのペースに合わせながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るか本人に聞きながら、対応している。季節の変わり目は、衣類の整理整頓を行い、補充の依頼を家族様に伝え、持参して頂いている。清潔不潔の区分困難な方はスタッフ側で管理している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	TVを中断し、CDを聞いて頂きながら、食事を楽しんで頂く。	業者より届く高齢者用献立食材を、時にはアレンジを加えながら専任の職員が作り、提供している。季節の行事食やホーム行事時での特別メニューも組み入れている。米や野菜は理事長宅での自家栽培物、味噌も同じく「食育」に携わる理事長お手製の物である。	管理者は、“入居者の一番の楽しみは食”との思いで、食事を生活の中心に捉えている。今後も美味しい食事の提供で、入居者の心と身体の栄養を満たせてあげて頂きたい。職員も一緒に食するとより家族的な食事風景になるのでは、と考える。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算のもと献立、調理を行っている。食事量水分量は時間、量を記録し、少量の場合は捕食等検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。出来ない利用者は、職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて記録し、時間をみて、声掛け、誘導を行っている。	排泄支援の中で、不要なパットや紙パンツを使用していないかの見直しを図った。トイレでの排泄を心掛けた支援を行っており、足腰を鍛える運動も普段から行っている。	布パンツの方も数名おられ、見守り確認だけの方も多くおられる。今後も自立に向けた支援の継続をお願いする。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便も記録し、便秘の方は、水分の飲用、運動を心がけ、どうしても無理な場合はDr.に上申し、下剤の服用をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間は一応決めているが、利用者が入浴を拒否された場合は無理に入浴されず、時間を改めたり、曜日を改め、臨機応変に入浴を実施している。	一人週2回の入浴を朝9時から午後3時の間に行っている。2人介助での入居者もおられる。日曜日の足浴では1対1対応での時間を大切に、会話を楽しんでいる。湯の入れ換え・洗浄はその都度行っている。	今後も1対1で触れ合える貴重な時間として、入浴タイムを有意義に支援して頂きたい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応し、休めないと訴えあるときは、傾聴に努めている。また、Dr. への上申を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は調剤の方に管理して頂いている。内服の変更時は申し送りを行い、職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いをして頂くことで、張り合いを持って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課で散歩を取り入れている。また、近隣の小学校の行事に参加されている。家族様より前もって外出の要望をされたときは、準備をし、スムーズに出かけて頂けるよう努めている。	毎日の散歩を日課としており、近隣を10分から15分程少人数で散歩に出掛けている。春には“おはぎ”を持参し、交流のある近くの小学校での花見を楽しんだ。	日常的な外出で近隣の住民とも関係が深まり、楽しみともなる。今後も継続した取り組みで、入居者の健康維持に繋がりたい。雪の為に行けなかった初詣が実施されるよう願っている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて一旦ホームで出している。本人様が自身でお金の所有はされていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙は希望あるときは、職員がお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感あるものを利用者とともに作り、貼り出したりしている。	コの字型に設計された建物は、中庭に光が行き渡り、明るく広々としたリビング・ダイニングや畳のコーナー、また一画に設えられたソファで寛ぐ事も出来、ゆったり感が感じられる。壁には入居者の季節の作品が貼られ、見るのも楽しい。	理事長の趣向で、共用部には観葉植物の配置や額絵などで上品な大人の空間が演出されている。外玄関入口も和風で趣があり、素敵である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファにて、気の合った人同士で、過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身が馴染みあるものを置かれたり、掲示物をされ、居心地の良い空間にされている。また、職員が週に一度シーツ交換を実施し、環境整備を行っている。	居室は十分なスペースが確保されており、ベッド・クローゼット（押入れ）・デスク・洗面台が完備されている。布団・シーツはリースで、シーツは毎週、布団・枕は年2回取り換えられる。布団は天日干しされ、衛生にも気が配られている。	各居室は十分な広さがあり、設備面では申し分ないが、もう少し馴染みの物があると個々の特徴だった部屋作りが出来るのではないかと感じられた。温かみのある、生活感を感じられる部屋作りを考えてみたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレには、大きく表札をあげ、わかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない